

# かけはし

発行：峡南教育事務所地域教育支援担当

所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢 771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでもご覧になれます URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



## 平成25年度「山梨県保・幼・小連携教育研修会」開催

県の義務教育課の主催による「平成25年度保・幼・小連携教育研修会」が、県内3か所の会場で地域ごとに開催されました(10月22日富士・東部地区:大月市民会館、10月24日峡南・中北地区:桃源文化会館、11月5日峡東・甲府地区:総合教育センター)。

この事業は、保育所(園)・幼稚園・小学校の連携を深めることによって、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図っていかうとするものです。小学校入学にともなう小1プロブレム(問題)や小学校における学級崩壊などに対する理解と対処を考える上でも注目される取り組みで、保育士・幼稚園教諭と小学校教諭が顔を合わせ、学識者による理論や他地域の実践事例等から相互理解の重要性を学び、情報交換と連携・交流を深めることで日常の保育・教育の充実を目ざします。

このうち10月24日に桃源文化会館において開催された峡南・中北地区研修会には、約110名が参加し、たいへん熱気あふれる研修会となりました。

この日はまず前半において、今年度取り組んできた様子を報告する「研究成果・事例等発表」が行われ、中央市と南アルプス市の事例とともに峡南地域の取り組みとして身延町西嶋地区の事例発表が行われました。「保育所(園)・幼稚園から小学校へのスムーズな接続を目指して～お互いを知り、つながりを深めよう～」の表題のもと、西島小学校の佐野由佳教諭、西嶋保育所の戸田恵美子保育士、静川保育所の望月由香保育士の3氏が、市川三郷町の定林寺立正保育園を含めた4者の交流活動の様子を生き生きと紹介。具体的には、まず「交流計画と情報交換会」を開き、「小学校授業参観と情報交換会(保育所職員が1・2年生の授業を参観)」「保育参観(小学校職員が保育所の様子を参観)」で職員交流をスタートさせ、「来入児への手紙とプレゼントづくり」「運動会交流」「『1年生はたのしいよ』の会」等の行事を通して子どもの交流を図っていくという形で、段階的に進められた連携の様子が示されました。

これらを通して、保育所の職員からは「園児の成長した姿を見ることができたり、小学校の様子を知ることができた」「情報交換会では園で気をつけていることな

どを伝えられた」、小学校の職員からは「職員がお互いに顔見知りになって、よい情報交換が行えた」「保育参観を行うことで、入学前からできることや様子などを知ることができた」として、それぞれ大きな成果が得られたことが述べられました。最後に、これからさらに実践的でより効果的な子どもの交流や職員間の連携・交流を続けていきたい、という今後の方向性が示されました。

事例発表の後、感想・意見交換が行われ、地域ごとのグループになって、連携についてのさまざまな検討が行われました。さらに、研修会の後半では、山梨大学教育人間科学部の高橋英児准教授による講評と講演があり、



授業参観(7月2日・西島小学校)

保・幼・小連携教育の重要性や今後の連携・交流活動の進め方などに関する方向性が教示されました。この研修会は来年度以降も引き続き実施されていく予定です。



グループによる意見交換

### 国民文化祭やまなし2013秋のステージin峡南

富士の国やまなしの国文祭は、文化の季節秋を迎えて峡南地域でも様々な催し物が開かれました。市川三郷町で「書」のイベント、身延町ではなかとみ地区の「工芸」と身延地区の「かるた競技全国大会」が行われました。このうち10月13日には、市川高校体育館を会場に「高校生書道パフォーマンス大会」が行われ、県内17校の書道部員生徒が参加、それぞれの若々しい思いの書を大胆にそして繊細に表現しました。一方、11月2～3日には、身延町民体育館において小倉百人一首のかるた競技全国大会が開かれ、全国から和装の選手が参加しました。歴史に支えられた優雅さとスポーツのような激しさが兼ね合わされ、熱戦が繰り広げられました。どちらも漫画などの影響で近年人気が高まっており、観客から盛大な喝采が寄せられていました。



西嶋地区3氏の事例発表の様子

## 命とは、親になるとは 赤ちゃんとのふれあいを通して学ぶ体験学習

六郷中学校(高野裕校長)では、赤ちゃんやその保護者とのふれあいを通して、命の大切さ、親になることの意味、そして親としての責任を自覚し、思いやりの心を育てることを目的に、10月31日に六郷ふれあいセンターにおいて、**思春期体験学習**が実施されました。総合的な学習の時間に位置づけながら毎年実施しているこの学習では、事前学習(生命の誕生や胎児の成長について学ぶ)、プレ実習(赤ちゃん人形を抱っこしたりシミュレーターを着用しての妊婦体験など)を経て、赤ちゃんやその保護者とふれあう体験実習へと展開されます。当日は、市川三郷町いきいき健康課保健師の呼びかけによって6組の親子が参加



妊婦さんはこんなに大変なんだ…  
(シミュレーターを装着して)

してくれました。町の保健師の指導のもと3年生33人の生徒たちは、6グループに分かれ、約40分間実際に赤ちゃんを抱いたりおもちゃを使ってあやしたり、また保護者ともコミュニケーションを図りながら

有意義な一時を過ごしました。はじめは、少し照れていた生徒も時間が経つとともに「かわいい」「肌が柔らかい」などの声をあげながら、積極的に笑顔で赤ちゃんに接し、抱き方もとても上手になりました。また、保護者に対しては前もって一人ひとりが質問を考えてきており、保護者の思いや悩みを聞き取りながら、交流を深めることができました。



赤ちゃんのホップは柔らかいね!

体験終了後、参加した生徒からは、「赤ちゃん抱っこ体験などふだんできないことができて、貴重な体験になりました。今後の生活に生かします。ありがとうございました」と赤ちゃんやその保護者、そして市川三郷町の保健師のみなさんに感謝の言葉を述べました。また、保護者からも「こわがらずに赤ちゃんを抱っこしてくれてよかったです。積極的だった男子の生徒さんは、きっと将来素敵なお兄さんになることでしょう」といった感想が寄せられました。

## もの・お金・人の関わりの大切さを学ぼう 金銭教育の公開研究会



平成24・25年度の2年間にわたり「山梨県金融広報委員会」より「金銭教育指定校」の委嘱を受けた上野小学校(樋口勉校長)では、10月25日に『生き生きと学び合う子

どもの育成を目指して～もの・お金・人との関わりの大切さに気づかせる金銭教育を通して～』をテーマに、「金銭教育公開研究会」を開催しました。

「もの・お金の大切さ」や「勤労を尊ぶ考え方」を身につけることを目的とした「金銭教育」は、家庭内で便利なものに埋め尽くされた環境に育ち、自分で道を切り開いていく原動力となる実体験や生活体験が著しく乏しいといわれている今の子どもたちにとって、人間形成の土台作りを目指すうえでとても大切な教育だと言われています。

当日は、今までの研究の成果を発表するために全学年で実施した公開授業と教育講演会に、保護者をはじめ町内外の教育関係者など多数の方が参加しました。公開授

業の後に行われた講演会では、テレビやラジオ番組に出演し、講演会やセミナー、執筆活動など多方面で活躍されているFP/経済ジャーナリストの「いちのせ かつみ」氏が、「欲しいものと必要なもの」と題し、講演しました。今では誰もが日常生活で利用している「コンビニエンスストア」を話題に取り上げながら、そこで販売されている品物を通し、自分にとってほんとうに必要なものは何かを考えさせる内容でした。ユーモア溢れる語り口調で子どもから大人まで楽しく学べる講演でした。実生活に即した体験的な金銭教育活動を教育課程に位置づけ、実践していくことで、子どもたちが自分の生活を見直しながら、よりよい生き方を主体的に考えていこうとする態度が着実に育っているという研究主任からの研究発表もあり、まさに今の学校教育が目指す、「生きる力」の育成に結びつく公開研究会でした。



## 早く小学校に行きたいな! 1年生の「あきまつり」にご招待



市川三郷町の三珠保育所年長組の子どもたちは、秋が急に深まった11月6日に上野小学校の1年生から今年も「1ねんせいあきまつり」に招待されました。これは毎年恒例になっている行事で、保育所のみんなはいつもとても楽しみにしているものです。

上野小学校のすぐ近くにある表門神社は、秋の訪れとともに様々な形のどんぐりや色とりどりの落ち葉に満たされます。1年生の子どもたちはそれらをていねいに拾い集めて、来春に入学を控えた「後輩」をもてなすことにしているのです。どのように保育所のみんなを迎えようか、どのような「おみせ」を出そうか、どうすれば楽しいだろうか、1年生は自分たちで考えました。去年、自分たちが招待されたときのことを思い出しながら、先生と相談し、準備を進めていきました。そして、**ポウリング・わなげ・ぬりえ・さかなつり**の4つ

の「おみせ」を出すことにして、それぞれ担当を決め、看板を作り、ルールを決めてお土産も用意。さらに前月の金銭教育(上記記事参照)の学習をふまえて、「おみせ」には、折り紙の財布に入れた「どんぐりコイン」を使うことにしました。はじめは照れていた子どもたちでしたが、顔見知りも多く、すぐに教室は一杯の歓声に包まれました。

これまで最下級生だった1年生でしたが、いつの間にか「先輩」として頼もしく振る舞えるようになっていました。

小学校の花壇に植えられた球根のチューリップがきれいな花を咲かせる頃、保育所のみんなは胸をふくらませて1年生として小学校の門をくぐります。



一番人気「ぼーりんぐ」



全部手作りの「ぬりえ」

## 峡南地域高等学校 秋の学園祭

文化の香り高まる秋を迎え、各地で学園祭が開かれました。春とはまた違った趣ある3校の学園祭の様子を紹介します。

### 身延山高校 延山祭 10/26

身延山高等学校の今年の**延山祭**、あいにくの台風接近による雨天で準備が心配されましたが、生徒と先生方が一丸となった熱気あふれる取り組みで、盛大に実施されました。

身延山の日蓮宗による私立高校とあって、開会式直後には仏式の「開式法要」が営まれました。続く生徒代表による弁論大会では、体験に基づく瑞々しい高校生の主張を披露。このほかバザー、お茶会、模擬店、お笑いライブやソーラン節ダンス、学年ごとの工夫を凝らした舞台発表など、台風の影響を吹き飛ばすような意気込みのプログラムが繰り広げられました。教室展示では日常の学校生活と修行の様子を垣間見ることができました。また、交流がある峡南高校から招いた応援団と吹奏楽による見事なパフォーマンスと、身延山高校の生徒とのコラボレーションも



行われ、引締まったすばらしい舞台に大きな拍手が寄せられました。



### 峡南高校 峡香祭 10/30~11/1

峡南高校は今年、創立90周年を迎えます。学科再編によって1年生からは工業科3クラスとなりましたが、3日間にわたって開催された**峡香祭**は、“ものづくり”と“おもてなし”の心意気が随所にみられる学園祭でした。

テーマは“彩〜カラフル〜”。「一人一人の個性を」を合い言葉に、64回目の伝統を受け継ぐ、華やかな行事となりました。ちょうどハロウィンの季節と重なったこともあり、校内の装飾や魔女やお化けなどの衣装をまとった生徒の登場は学園祭に華やかな彩りを添えていました。昨年より期間を1日増やしてすべての生徒がクラス発表や応援団、吹奏楽の舞台をゆっくり見学するとともに、模擬店の充実を行うこともできるようになりました。また、体育館ステージ上の巨大な“ステージバック”は見事な彩りを誇り、まさに圧巻。3日目の体育祭では多くの生徒が早朝から準備にあたるなど、本当に一体感が高まった3日間でした。



### 増穂商業高校 緑誠祭 11/8~9

増穂商業高校最大のイベントのひとつである**緑誠祭**は、今年58回を迎え、盛大に開催されました。テーマは“今を生きる！ you only live once”。学園祭という機会に、日頃の学校生活の成果を精一杯披露する生徒の姿は、まさに“一度きりの人生”を輝けるものにする意気込みに満ちあふれていました。校門に入って正面の壁面には全校製作の巨大で細やかなモザイクアート、「北斎赤富士」が訪れた人々を迎えます。

初日は開祭式に続いて、文化部の発表やクラス発表が行われました。個人によるステージ発表もあり、体育館はとても盛り上がった空気に包まれました。

2日目のメインは何と言っても“増商デパート”。富士川町と地域の方々を招いて、テープカットが行われ、午前10時15分を過ぎると体育館と中庭の各店舗



が一斉に開店、すぐにどこもお客さんで大賑わいとなりました。日頃学んでいる“おもてなしの心”と“ビジネススマナー”が見事に発揮された素晴らしい一日でした。



## ことぶき勸学院短信

## 平成25年度 勸学院祭開催

10月17日、コラニー文化ホール(小ホール)において、第27回山梨ことぶき勸学院祭が開催されました。今年度から様々な仕組みや組織が改定された勸学院ですが、参加している方々の学ぶ意欲は一切変わることなく、むしろ一層熱心に取り組む様子が感じられます。今年のテーマは「勸学院 学ぶ楽しさ 豊かな心」。これは、峡南教室2年生の佐野照代さんほか2名から提案されたもので、開会行事において瀧田学院長から表彰を受けました。また、当日の司会を務めたのは、やはり峡南教室2年の坂本喜美子さんと長田雪江さんほかの方々に、峡南教室の皆さんの活躍が目立っていました。



勸学院祭のメインは教室ごと、学年ごとの舞台発表ですが、峡南教室2年生は、合唱と寸劇。懐かしい『おさななじみ』の合唱とともに、これまでの人生を振り返るような園服や学生服の衣装を身につけた楽しいパフォーマンスが行われました。1年生は、峡南教室恒例の『座・ソーラン』です。鮮やかな色の法被を身にまとい、速いテンポのリズムにぴったりの呼吸で、勇ましく、そして勢いよくパフォーマンスを繰り広げました。ともにこの日のために早い時期から企画し、練習と準備を熱心に進めてきました。

勸学院祭の成果を通じてともに学ぶ方々の絆を深めるとともに、新たな目標に向けてのそれぞれの前向きな取り組みがまたはじまります。



## 開祖命日の法要



10月27日に富士川町青柳の日蓮宗寿命山昌福寺において、御会式法要のお祭りが行われました。これは日蓮宗開祖の日蓮上人の命日とされる10月13日にちなんで、その

前後に営まれる法要で、総本山である身延町の久遠寺をはじめ、終焉の地とされる東京池上本門寺など全国の日蓮宗系の寺院で行われているものです。

山梨県内には約1500の仏教寺院がありますが、そのうちの400余りが日蓮宗系(法華宗系)の寺院とみられ、これは割合においても実数においても全国有数のものとなっています。とりわけ峡南地域の身延町にはその多くが集中しており、久遠寺を核として信仰の聖地としての役割や価値を保ち続けているといえましょう。また、県内の各地には日蓮ゆかりの伝承や事績、宗派の歴史を背景とする名刹が多く存在しています。

こうした中で富士川町の昌福寺は、鎌倉時代後期の開基とされ、特に江戸時代前期の霊元上皇の病氣平癒に効力があつたとされる事績にちなむ「虫切り加持」でよく知られています。また、本県関係唯一の総理大臣である石橋湛山が、実父の同寺住職赴任により東京から山梨へ移り住む契機となったゆかりの寺院としてもとても有名です。

この昌福寺では、伝統的しきたりとなっている法要や行事、著名な春と秋の虫切り加持の祈禱を行うほか、現在、様々な新しいかたちの行事に取り組んでいます。庫裏をギャラリーとして絵画の展示会を行ったり、季節に応じた音楽会を開催したりする様子は、地域においても新たなコミュニティ活性化のありかたとして注目されています。

10月の御会式においても、少子化などの影響で途絶えていた稚児行列を復活させるとともに、法要を昼夜の2部構成とし、昼の部では伝統を受け継ぐ厳かな法要を執り行う一方、夜の部ではアーティストックパフォーマンスを交えた華麗なお祭りが行われました。

## 稚児による声明(しょうみょう)

稚児については、これまで募集していた稚児の参加希望者がとても少なくなってしまう上に、儀式としても形骸化する傾向が顕著になっていたことに危機感を抱いた現住職が、参詣する人々の心に響くような、また参加した子どもたち自身が誇れるような法要を行うことを目指して、昨年より地元の合唱団である、「ますほジュニアクワイア」の子どもたちに稚児を務めてもらうことにしました。この子どもたちが行うのは、合唱団の特性を生かした、仏典

を厳かに歌い上げる「声明(しょうみょう)」です。東京から招いた日蓮宗立学寮生(立正大学の学生修行僧)による礼拝読経とそれに続く荘厳な声明に、明るく透明感のある子どもたちの稚児声明が重なり、まず昼の法要においてたいへん深い印象を残しました。夜の部ではさらに、山梨県内を拠点として、全国的に活躍の場を広げているファイヤーパフォーマンス集団「和火(カズカ)」による「火」を使った見事なパフォーマンスが彩りを添え、稚児声明はさらに大きく盛り上がりました。まさにひとつの感動的な空間が作り上げられたといえます。観覧にお寺を訪れた多くの人々、とりわけ子どもたちは、時間のたつのも忘れて、きらびやかで心洗われるような舞台に見とれていました。

昌福寺住職の岩間湛教さんは、「宗教活動においても、また日常生活においても、様々なしきたりや決まり事は、その本来の意味を突き詰めて考えることで、人々の心を揺さぶったり本当に価値あるものになり得たりする。今進めているのは、新しい行事の展開というよりもむしろ、宗教の根源を追究する展開だと考えます」と話してくれました。また、稚児声明に参加した子どものひとり「緊張したけれども、心が引き締まる思いがしました」と感想を言ってくれました。

社会や教育、家族や地域、いろいろな面で混迷が深まっていくような報道が少なくない昨今、昌福寺では人と人とのふれあい、そして絆を深める「かけはし」となるような寺院のあり方を模索して、心温まるお祭りが行われています。



和火によるファイヤーパフォーマンス



本堂前の壮麗な声明の様子

### 編集後記

今号がお手元に届く頃には、通年で開催されてきた「やまなし国文祭」も終了していると思います。山梨の豊かな文化が全国に届けられたでしょうか。峡南地域でも、様々な催し物が行われ、あらためて身近な伝統や文化について考え直すことができたかもしれません。地域の絆を深められるような文化を受け継ぎ、そして新たに創りあげていきたいものです。